

2 畳の茶室によるインスタレーション - 野点と葉序と八ツ掛支柱

八代研究室

01212127 柳沼 健太

1. はじめに

建設棟2階にある二ヶ所のテラスは58㎡もの広いスペースがあるにもかかわらず閑散として殺風景である。このため2015年3月に制作したのがSaji Terrace(写真1)であり、ウチ(建築)空間と、ソト(庭)空間の二つの空間の逆転を表現している。しかし、もう一方のテラスは依然として寂れたままである。そこで茶事をテーマにしたインスタレーション^{※1}を行いNodate Terraceと命名し、場所の活性化を試みた。また今回の作品は茶室コンペ^{※2}に応募する予定である。

2. 設計内容

コンペの規定に準じて平面内寸を1,800mm×1,800mm以内とし自立する構造かつ自力運搬・組み立て・解体ができるモノとした。本制作ではコンペのテーマである『一番小さな交流のかたち「2畳の茶室」』から発想される茶室内部の1対1の対面ではなく、この場所を起点にしたソトとの繋がりによる新たな交流を提案する。そのため中央に茶室を配しテラス全体が一つの空間になるように設計した(図1)。さらに建物間から見える富士山と新幹線を借景にすることで広がりのある空間とした。そうすることでSaji Terraceで表現した逆転収縮された庭空間との対比を連作テーマとした。

3. コンセプト

コンセプトは三つある。一つ目は野点(写真2)である。壁で区切られない野点はウチとソトが繋がり様々なコミュニティのカタチ(図2)が生まれるであろう。二つ目は葉序(写真3, 図3)である。葉序とは茎に対しての葉の配列であり、究極の比で配列(黄金分割)された葉のレイアウトによって吸水率と光合成の向上につながっている。三つ目は八ツ掛支柱(写真4, 図4)である。この支柱は高木の1本立ちに

よく用いられ、構造は3本の支柱が木と他の支柱との2点または3点で結束され中央の木を支えている。

4. 制作過程

4.1 土台(写真5) :土台は年輪を魅せるようにカットした枕木を鋸で固定し、防虫ステインとワトコオイルを塗布し耐水ペーパーで仕上げた。ル・コルビュジェへのオマージュとして黄金比のグリッドデザインにし、中央に砂利を敷き正方形の炉を切った。

4.2 野点傘・傘立て(写真6,7) :竹を6等分に割り銅線で固定し花が咲く様子を表現した。割った竹を結ぶ銅線の位置は葉序の規則性をもとに137.5°回転した位置に決めている。さらに傘立ての代用として用いた八ツ掛支柱の3本の竹も同様の表現をすることで咲き誇る花傘をイメージしている。支柱を突き刺せるような地面ではないため、枕木に穴をあけて本来の支柱の強度を発揮できるようにした。安全面を考慮し銅線で固定したのちシュロ縄で縛り強度を増した。

4.3 植栽・縁台(写真8) :植栽はインスタレーションの期間を考慮して植えつけはせずに根巻きをした状態で設置してある。土嚢袋で植物を固定し生駒石で美観を保った。野点の特徴である毛氈を敷いた縁台を利用することで本来の野点の面影を残しその存在を知ってもらうとともに、今回制作した空間(写真9)のアクセントとなるようにした。

5. おわりに

茶室の新たなカタチと植物のもつ幾何学的な美しさ、それを支える先人からの知恵と技術により生まれた支柱の美しさを今回のインスタレーションで表現した。ここから植物の美しさや奥深さを知り多くの学生が庭の世界に興味を抱いてくれることを願う。

※1 期間は2016年1月14日(火)~2月8日(月)

※2 JIA 神奈川 建築 WEEK かながわ建築祭2016

茶室デザインコンペティション(2016年1月22日 応募予定)

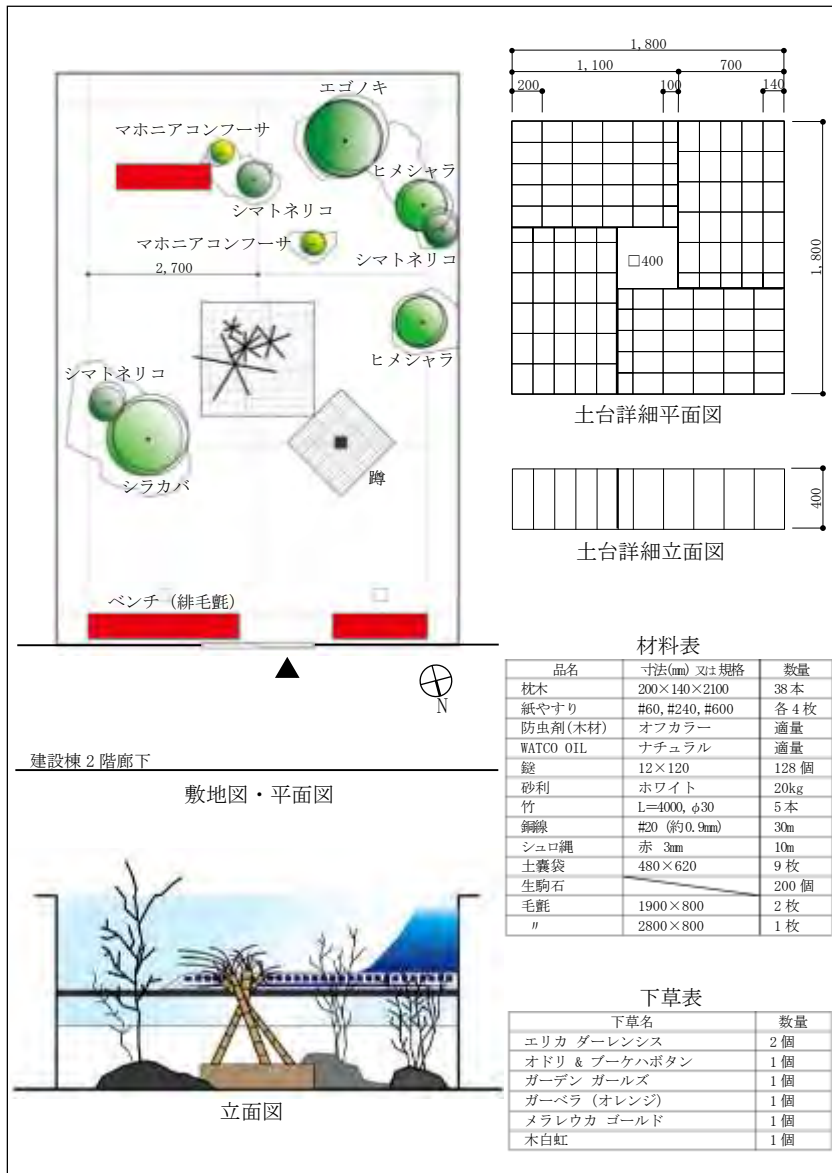


写真1 Saji Terrace



写真2 野点

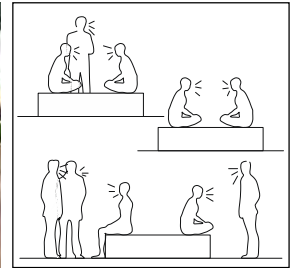


図2 ソトとの繋がり



写真3 葉序

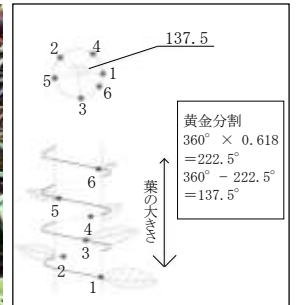


図3 葉序図解



写真4 ハツ掛支柱



図4 ハツ掛支柱図解

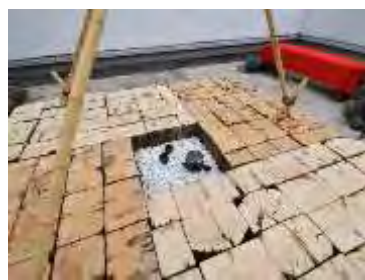


写真5 土台



写真6 竹傘



写真7 傘立て



写真8 植栽・縁台



写真9 Nodate Terrace